

新・武蔵野ラグビースクール 指導方針

2010年4月11日

私たち武蔵野ラグビースクールは昭和43年度から続いた武蔵野市主催事業を離れ、平成22年度から完全民営化することになりました。そこで改めて43年間に亘るラグビー競技を通じた青少年の育成指導のノウハウを生かし、さらに新・武蔵野ラグビースクールとして次の様な指導方針で子供たちに接していきます。

まず、前述の通りラグビーという競技スポーツを通じて指導に当たるわけですが、競技スポーツとは読んで字の如く「技を競い合う」ことです。そうなると必然的にそこには「勝負」が関わってきます。勝負とは必ず相手がいるその相手に打ち勝つことが目的になります。その目的を達成するためには常日頃の鍛錬で筋力体力の向上・スキルの向上・判断力の向上・チーム戦術戦略を練り正確なプレーを完成化させる必要があります。

所謂 CHAMPION SHIP ラグビーを目指すのであればそのような指導が必要になるでしょう。普段テレビや秩父宮・国立競技場などで目にする全国高校ラグビー、大学選手権、トップリーグそして JAPAN がワールドカップで勝利するためには常にその努力が必要です。

みなさんもこれらのラグビーを目にして『うちの子供も将来は有名選手になってくれたら良いな』とか、『うちの子は運動神経ありそうだから今のうちからラグビーの英才教育をうけると良いんじゃないかな』など思われているご家庭もあるかもしれません。ちょっと考えて見ましょう。

彼らトッププレーヤーはなぜ辛い鍛錬に耐えられるのでしょうか、そしてなぜ彼らはプレーが上達して行くのでしょうか。その答えは皆ラグビーが好きだからです。好きじゃなきゃ辛い練習に耐えていけません。



さて、私たち武蔵野ラグビースクールに課せられていることはもうお解かりと思いますが、まず子供たち全員に「ラグビーが好き！」にさせることです。この「好き！」になることが将来の全ての入口です。

また、好きでもないのに勝利しても本来の楽しみは解りません。だから私たちはその入口に来て貰った多くの子供たちに「ラグビーって楽しくて大好きだ！」って思ってもらえるよう努力します。これは当スクールに在籍する幼児から中3まで全ての生徒に対して一貫した考え方です。従いメンバー選抜した強いチーム編成、つまり1軍2軍制度はとりません。

ラグビーというスポーツが他のスポーツを違うところは「ALL FOR ONE ・ONE FOR ALL」と「NO SIDE の精神」、そして「FAIR PLAY の精神」でこれが特色でもあり本質です。

私たちは当初よりこれらの本質を「3つの F」= FRIENDSHIP / FIGHTING SPIRIT / FAIR PLAY として掲げてきました。

ー 仲間を信頼すること=ALL FOR ONE ・ONE FOR ALL=FRIENDSHIP

ラグビーには HERO は居ません。あえていざすれば全員です。仲間が居るからこそそれぞれが活躍できるのです。いつでも信頼できる仲間が近くにいること、またいつでも仲間の為にサポートへまわられること、それがとても大切です。

ー 相手を尊敬し周りにも感謝の気持ちを持つこと=NO SIDE の精神=FIGHTING SPIRIT

相手も全力でぶつかってきます。だからこちらも全力でぶつかっていかなければなりません。そうしなければ相手に失礼です。自分がラグビーが出来るのも家族はもとよりコーチ、グラウンドを準備してくれる方々、その他大勢の力があってこそなのです。

ー FAIR PLAY の精神

体のぶつかり合いがあるからこそ、他のスポーツより FAIR PLAY に努めなければなりません。FAIR PLAY 無しではラグビーは成り立ちません。

以上のことは将来社会に出ても必要な事です。私たちはこれらを踏まえて子供たちの指導育成にあたります。

安全について

体と体のぶつかり合いがあるのもラグビーの特徴です。だからといって怪我をして良いわけありません。ラグビー協会へチーム登録する際には必ず「安全講習会」への参加が義務付けられており、安全に対する徹底指導を受けています。

また、大半のコーチはラグビー協会が認定する「新スタートコーチ認定」を、また4年に一度の「スタートコーチブラッシュアップ講習会」そして「メディカルサポーター認定」を保持しているコーチもいます。

多少の擦り傷や捻挫はあるかもしれませんが、それらの小さな怪我に対しては常備している救急箱で対処します。万一、骨折などの応急処置後に病院へ行くべき怪我が発生した場合は状況に応じて救急車を要請します。その際は直ちに保護者へ連絡し、もし保護者不在の場合は必ずコーチが同伴します。

熱中症対策についても常日頃から注意喚起して早めの給水を取るよう指導しています。そして子供たちの様子を見ながら、調子の悪そうな子がいたら無理させず休ませるなど早めの対応で事故防止対策を行っています。

将来の生活に大きなダメージが出るような重症事故は絶対に防がなければなりません。過去に小・中学生でその様な重症事故は発生したことはありませんがそれらの事故が絶対に起きない、起こさない指導方法は、全てのコーチの共通認識としてあたっています。

以上